

氏名	芝 侃 司
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1828 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和62年 9 月30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	筋移行による麻痺声帯駆動術に関する実験的研究
論 文 審 査 委 員	教授 松尾信彦 教授 堀 泰雄 教授 中山 沃

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

声帯麻痺の理想的な治療は、声帯に正常な運動性を獲得させることである。従来よりその目的で、種々の方法が神経外科的方面よりなされている。しかし、この方法は再生神経の過誤支配の問題があり、臨床的応用には至っていない。

著者は、前筋および胸骨甲状筋を用いて、発声および呼吸に同調した声帯再運動化をはかる方法（麻痺声帯駆動術）を犬喉頭で試みたので、その成果を報告した。

実験には反回神経を切断した成犬27頭を使用し、前筋・甲状軟骨弁を披裂軟骨筋突起に縫合（移行）する声帯内転術と、胸骨甲状筋を後筋に縫合（移行）する声帯外転術を同時に施行した。術後は定期的に声帯の運動性、発声・呼吸・嚥下の状態を観察し、3～6ヶ月後局所剖検による病理組織学的検索を行った。

術後、ほぼ正常な声帯の再運動化が得られ、かつ発声・呼吸・嚥下の機能が良好に保たれた率（成功率）は、内転術で75%、外転術で50%であった。それらの成績を基に、技術的な問題点、また臨床的応用における問題点につき検討した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究者は、声帯再運動化をはかる麻痺声帯駆動術について実験的に研究したものであるが、従来十分確立されていなかった声帯麻痺の手術的療法について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。